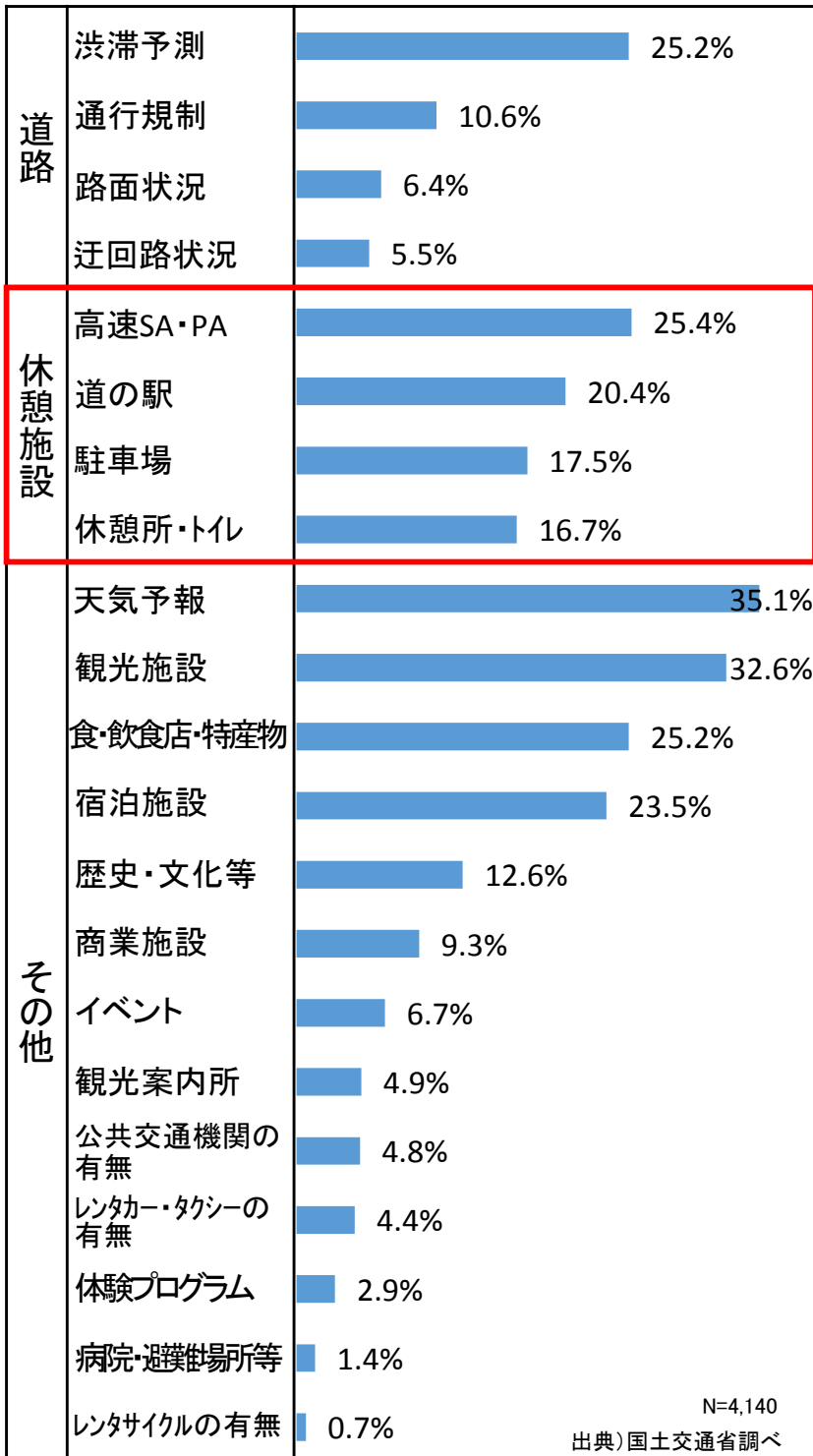


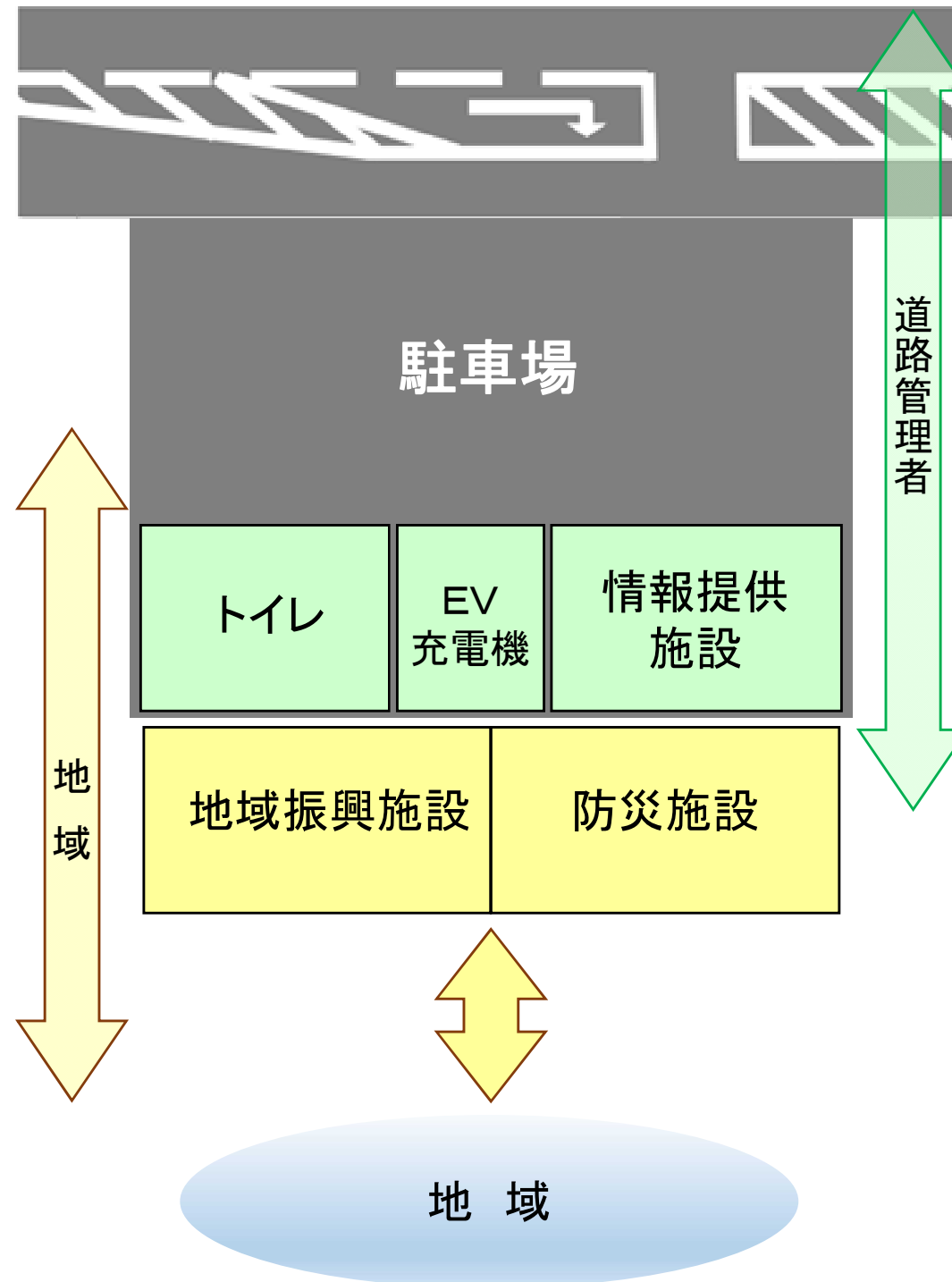
移動において「たまり」は重要な要素

■移動前に入手する情報



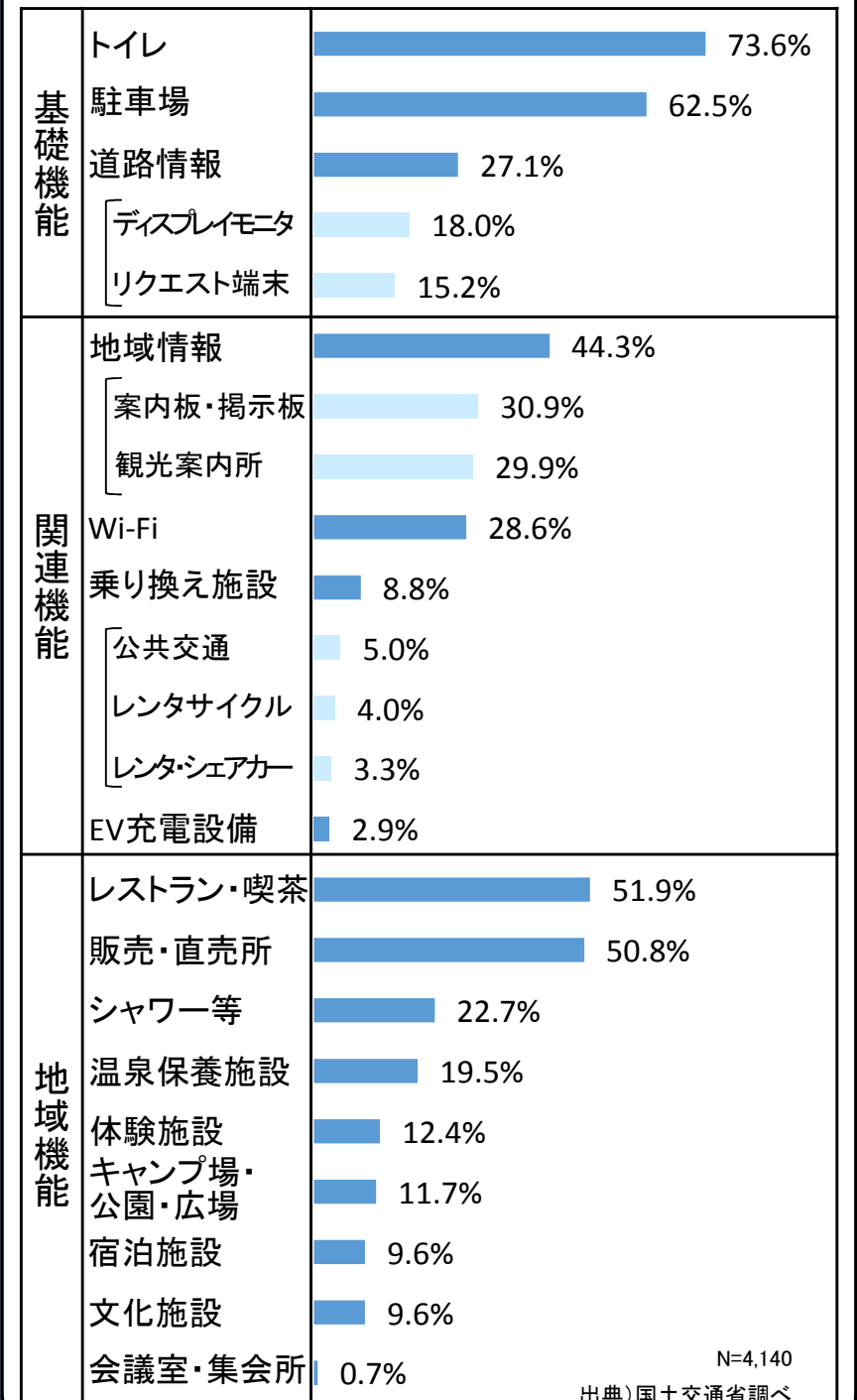
地域との連携 (ゲートウェイ)

<休憩拠点のイメージ>



利用者は、基本的な休憩機能に加え、関連サービスや地域サービスを欲している

■休憩で利用したい施設



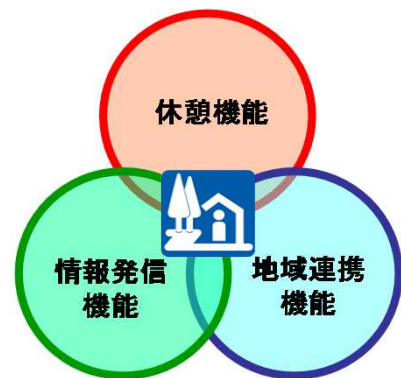
これまでの取り組み

これまで休憩施設へのアクセスが制約のある高速道路や一般道の郊外部を中心に取り組みが進展

一般道(郊外部) 乏しい選択肢

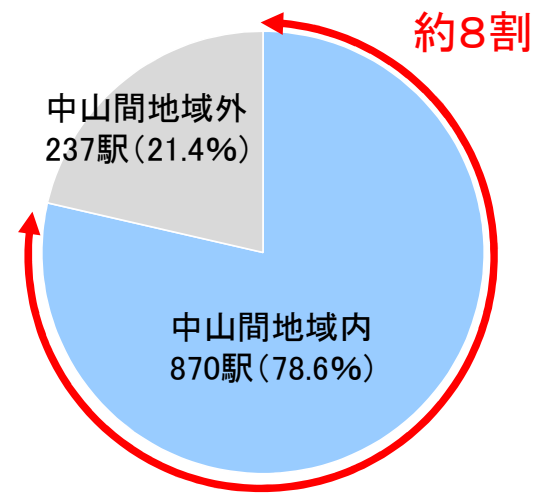
○「道の駅」の展開

■「道の駅」の機能



- ・24時間、無料で利用できる駐車場・トイレ
- ・道路情報、地域の観光情報、緊急医療情報などを提供
- ・文化教養施設、観光レクリエーション施設などの地域振興施設

■「道の駅」設置地域の状況



N=1,107
出典)国土交通省調べ

○地域との連携強化

■重点「道の駅」に想定される機能

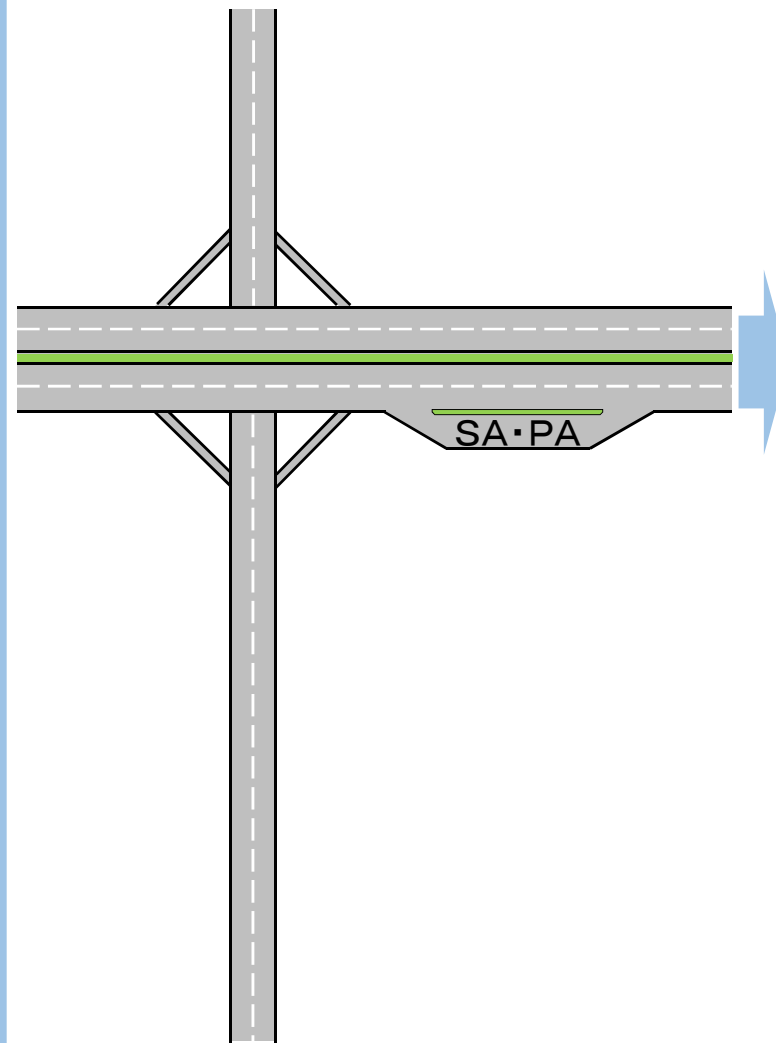


- H26年度:ゲートウェイ型と地域センター型に機能を大別し、
全国モデル「道の駅」(6駅)、重点「道の駅」(35駅)を選定
- H27年度:地方創生に資する地産地消の促進、小さな拠点の形成等を目指した
重点「道の駅」(38駅)を選定
- H28年度:住民サービスをテーマに特定テーマ型モデル「道の駅」(6駅)を選定

市街地

豊富な休憩サービス

(コンビニ、レストラン
ガソリンスタンド 等)



郊外部

乏しい休憩サービス

高速道路

閉鎖的な空間

○計画的なSA・PAの配置

■SA・PA(866箇所)高速道路会社管理



新東名高速 岡崎SA

○サービスの充実

■観光コンシェルジュ



東名高速 海老名SA

■ドッグラン



山陽道 三木SA

○地域とのつながり強化

■地元学生等による演奏披露の場としての活用



新東名高速 浜松SA

■地域食材を活かしたメニュー開発コンテスト



道央道 有珠山SA等

平成28年度は、公共の福祉増進を目的とした地域住民へのサービス向上に資する“住民サービス”が特定テーマ

りょうかみおんせん やくし
①両神温泉薬師の湯
(埼玉県小鹿野町)



- 高齢者を指導者とした体験交流
- バスターミナルを整備し、高齢者の移動手段確保
 - 高齢者の就業環境作りを目的とした体験交流

さくら さと しょうかわ
②桜の郷荘川
(岐阜県高山市)



- シルバースポーツフェスティバル
- 温泉施設利用者への無料送迎サービス
 - 屋内運動場を活用した健康増進活動

みやま
③美山ふれあい広場
(京都府南丹市)



- 行政サービス(各種証明発行等)
- 住民出資会社を設立し、日用品販売を継続
 - 行政窓口や診療所、郵便局等が集約
 - 高齢者のサークル活動やミニデイの実施

こい くぼ
④鯉が窪
(岡山県新見市)



- 内科診療所
- 行政窓口や診療所、認定こども園等が集約
 - 文化ホール等での地域コミュニティ活動

しょうどしま
⑤小豆島オリーブ公園
(香川県小豆島町)



- 介護予防教室
- 駅全体の収益を、福祉関連施設の運営に還元
 - 介護予防教室等の健康増進活動

さかたに
⑥酒谷
(宮崎県日南市)



- 特産品加工の体験教室
- 駅の収益を住民自治活動に還元
 - 郷土料理・特産品加工の体験学習

今後想定される
特定テーマ

- モーダルコネク
- 防災
(地域の災害対応力の向上等)
- 地産地消
(地域の雇用創出や税収の拡大等)
- 観光
(周辺施設への観光客の誘致等)
- 移住・定住
(移住・定住者の増大等)

・
・
等

次年度以降も特定テーマを設定し、質的向上の模範となるモデル「道の駅」の選定

高速道路の休憩施設

- 休憩施設の空白地帯では、IC近傍の「道の駅」を高速道路から案内し、休憩施設として活用
- ETC2.0搭載車を対象として、一時退出しても料金をそのままとする実験を全国3箇所を開始。全国で休憩施設の間隔が概ね25km以上ある約100区間について、今後、半減することを目指す

■一時退出のイメージ



■道の駅における高速道路利用者向けの提供サービス



周辺の高速道路含めた道路情報の提供
(道の駅 ソレーネ周南)



赤ちゃんの授乳やおむつ替えに使用出来るスペース
(道の駅 玉村宿)



運転の疲れを癒やす足湯
(道の駅 もっくる新城)

スマートIC

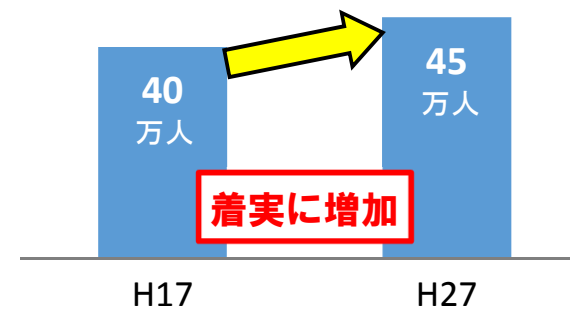
- スマートICの設置により、高速道路と地域とのアクセス性の向上を図り、地域の活性化に寄与

■小布施スマートICの例(長野県小布施町:平成18年10月供用)

- 高速道路から市街地への所要時間が短縮
 - 東京方面から10分短縮 (15分→5分)
 - 上越方面から 5分短縮 (10分→5分)
- 町は、来訪者のゲートウェイであるスマートICに近接する「道の駅」を拠点として周遊シャトルバスを運航し、観光振興を推進



■道の駅「オアシスおぶせ」入込客数



■小布施スマートIC利用台数

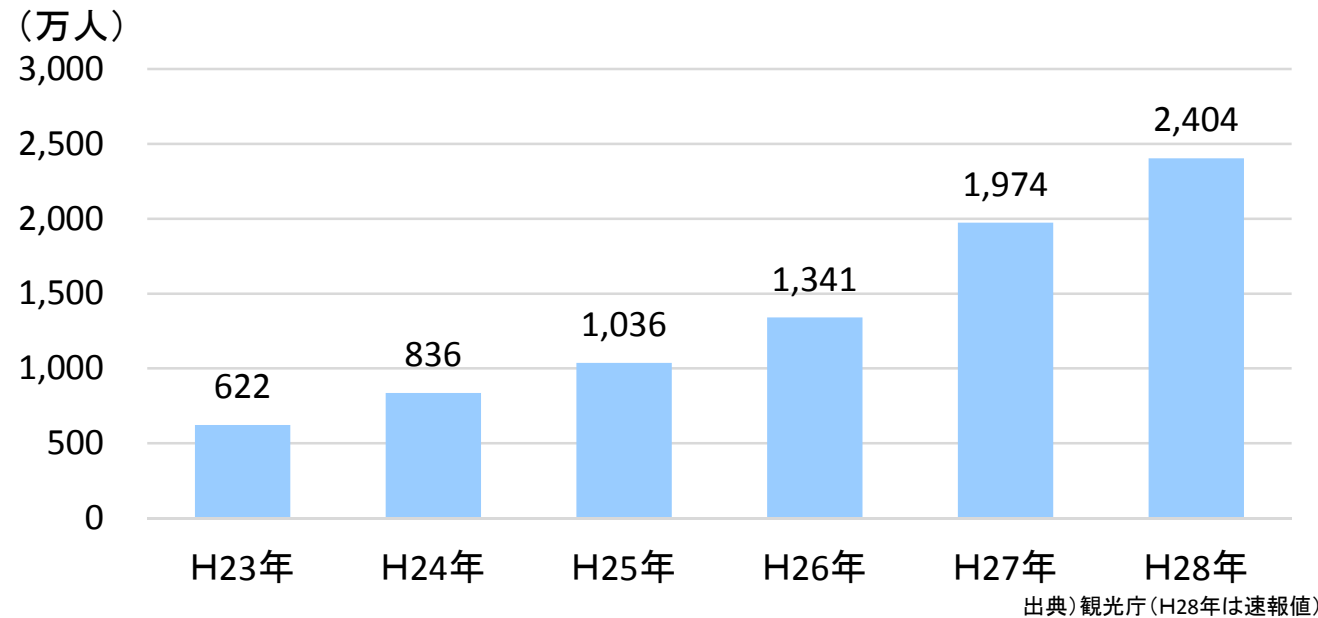


出典)長野県小布施町提供データより作成

訪日外国人旅行者の動向

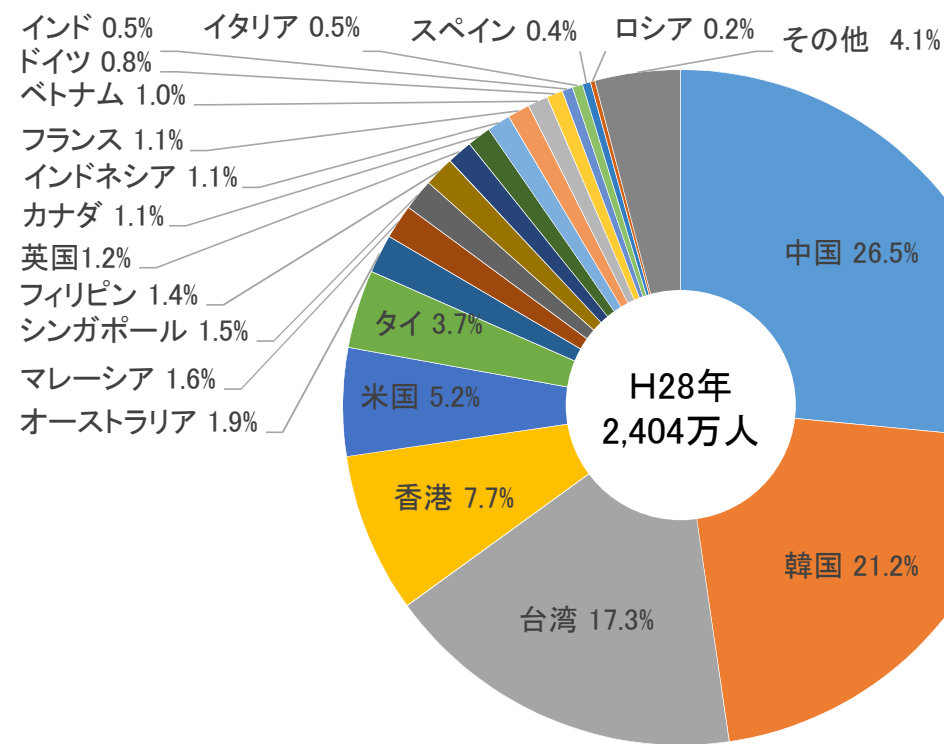
○ 訪日外国人旅行者は急激に増加。平成28年は、約2,404万人を達成

■ 訪日外国人旅行者の推移



○ 訪日外国人旅行者は、様々な国より訪れている。

■ 平成28年 訪日外国人旅行者の国別割合



外国人旅行者への対応

○ 「道の駅」や高速道路SA・PAの休憩施設では、JNTO認定外国人観光案内所・免税店の設置等、インバウンド観光へ順次対応

■ JNTO認定外国人観光案内所



「道の駅」阿蘇

「道の駅」: 80駅
SA・PA: 150箇所 (NEXCO3社)

■ 免税店



中央道 EXPASA談合坂(下り)

「道の駅」: 27駅
SA・PA: 45箇所 (NEXCO3社)

■ 外国人旅行者向けハンドブック



北海道ドライブまるわかり
ハンドブック表紙
(上記は英語版、その他、簡体中文、
繁体中文、ハングル版も作成)



エリア別観光案内
ページの例

■ 無料公衆無線LAN (Wi-Fi)



「道の駅」SPOT (Wi-Fi) シンボルマーク




各高速道路会社Wi-Fiシンボルマーク

休憩施設等の充実と活用(素案)

[現状]

[休憩施設等の充実に向けた取組(案)]

■「道の駅」の機能 (N=1107)		
基礎機能	トイレ※1	不具合なし91% 不具合あり9%
	駐車場	■駐車場の混雑状況  <small>「道の駅」おばあちゃん市・山岡(岐阜県恵那市)</small>
	情報提供※2	端末故障なし84% 端末故障あり16%
主な関連機能	交通拠点機能	あり46% なし54%
	防災拠点	位置付けあり39% 位置付けなし61%
	Wi-Fi	あり66% なし34%
	観光案内所	あり73% なし27%
	EV充電機	あり54% なし46%

※1: 不具合調査実施のN=1072駅 出典) 国土交通省調べ
 ※2: 情報端末装置配置済のN=704駅

■高速道路SA・PA(有人施設) (N=559)		
基礎機能	トイレ	不具合なし100%
	情報提供	不具合なし100%
主な関連機能	救援物資の備蓄	あり73% なし27%
	Wi-Fi	あり81% なし19%
	観光案内	あり99% なし1%
	EV充電機	あり57% なし43%

出典) 高速道路会社調べ(NEXCO3社)

①基礎機能の充実

トイレ

より快適な休憩サービスを提供する

トイレ等の品質向上

駐車場

より確実に休憩スペースを提供する

駐車場容量の運用改善

情報提供

利用者の周遊を促す

的確な情報提供

②地域拠点形成への支援

交通拠点

自動運転技術等の活用による

交通拠点機能の強化

防災拠点

地域防災計画と連携した

災害時支援体制の強化

地域拠点

住民へ行政サービス等を提供する

行政窓口や診療所等の集約

観光拠点

多様なニーズに応える

外国人旅行者対応や宿泊施設の配置

③地域の工夫への支援

地域振興

相互に価値を高め合う

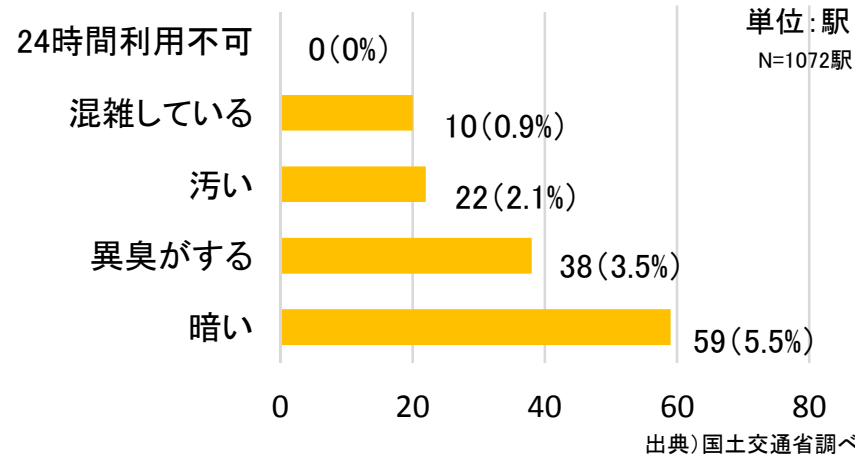
「道の駅」間や「日本風景街道」等との連携強化

多様な利用者へのサービス向上

「道の駅」のトイレの状況

○トイレが汚い、異臭がする等の質的向上が必要な「道の駅」が存在

■調査結果(調査期間:H28.4月末~H28.5月)



○新東名高速道路では日本トイレ大賞「国土交通大臣賞」受賞 (NEOPASA清水)



「道の駅」等の駐車場の利用状況

○駐車場の大型マスが不足し、長距離ドライバーの休憩を阻害

■「道の駅」の駐車場の利用状況



トラックと観光バスが混在



駐車マス以外の場所に駐車

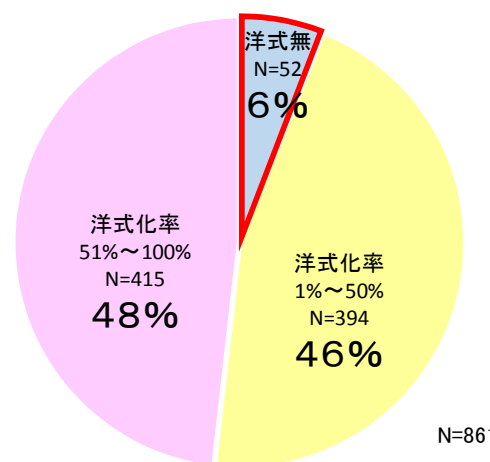
「道の駅」のトイレの改善

○トイレの改善に関するチェックポイント(指針)を作成し、効率的な改善を支援

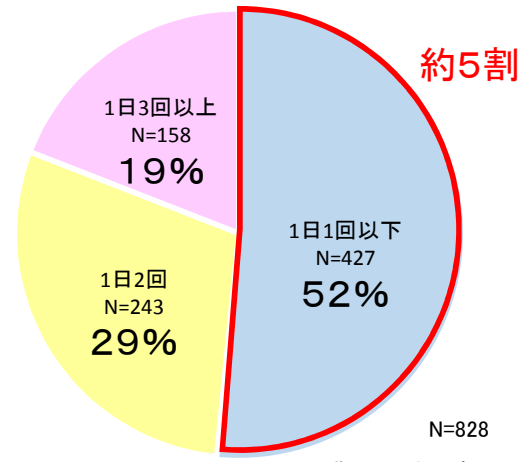
(参考)

- ・6%の「道の駅」では女子トイレが洋式化されていない
- ・また、約5割の「道の駅」はトイレの清掃回数が1日1回以下

■トイレ洋式化率(女子トイレ)



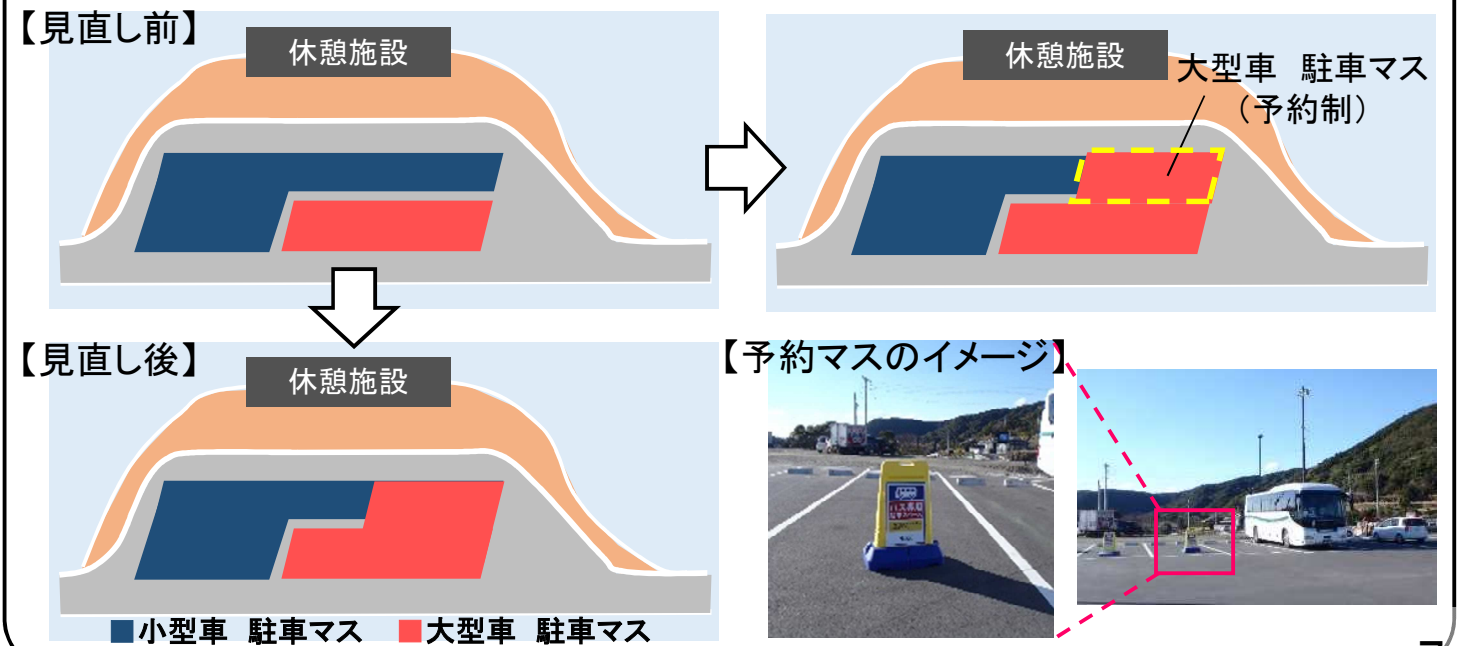
■トイレ清掃回数



駐車マスの見直し、運用改善

○一般と大型車のマスの割振りの見直しや、大型車マスの予約制の導入により、適正かつ確実な休憩を実現

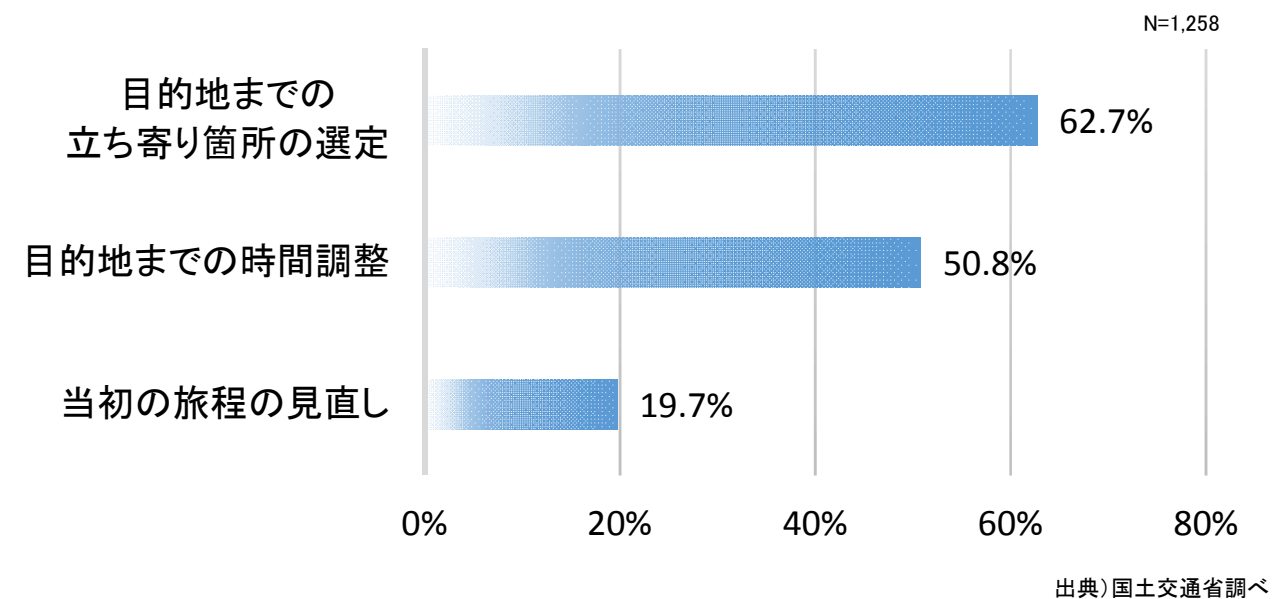
■駐車場マスの見直し、大型車マス予約制の導入イメージ



「道の駅」で入手した情報の活用状況

○観光客は「道の駅」で入手した情報を基に旅程を決定

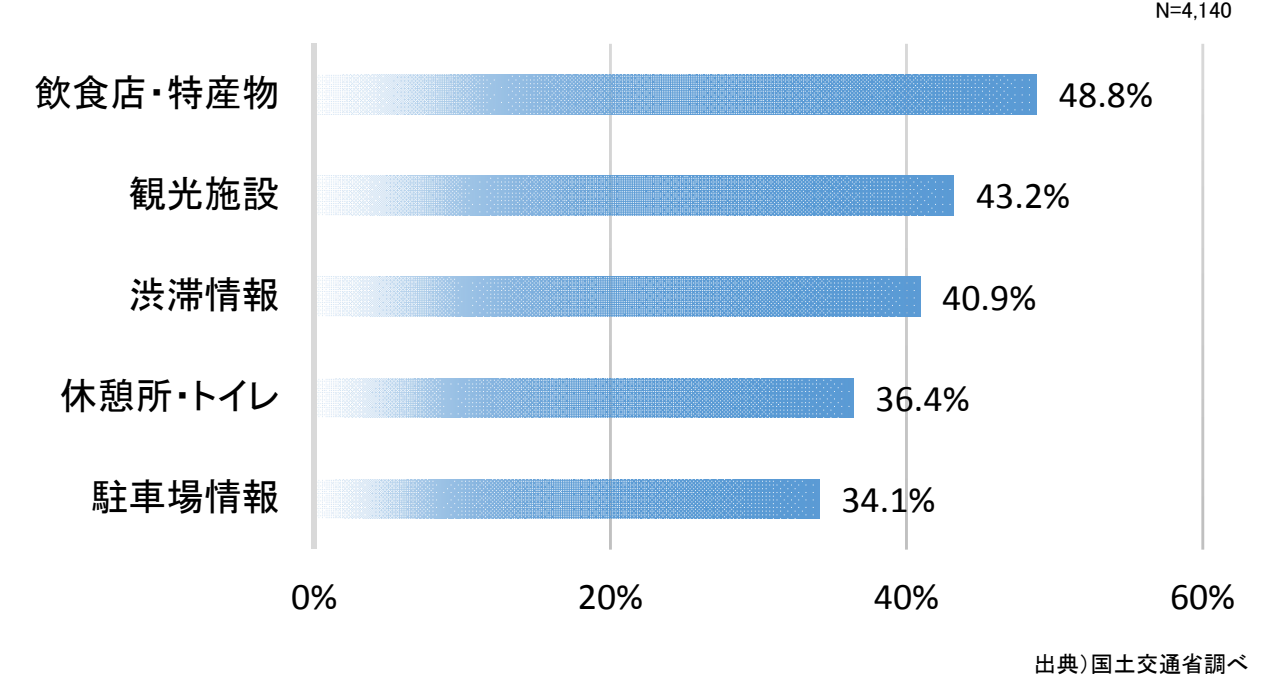
■観光客が「道の駅」で入手した情報の使い道



観光客が求める情報

○観光客は地域情報や渋滞・駐車場情報を求めている

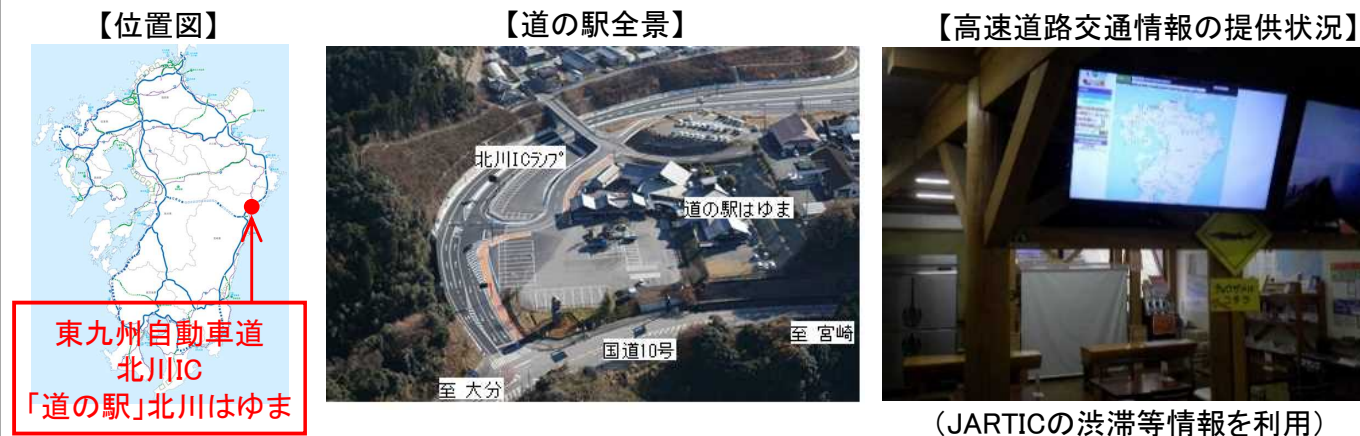
■観光客が観光地周辺で入手したい情報



地域交流(観光周遊)を促す情報提供

○「道の駅」で周辺の高速道路等の道路交通情報(渋滞、規制情報)などを提供

■「道の駅」北川はゆま(宮崎県延岡市)の事例



○周辺観光資源の魅力のみならず、周遊に要する時間や経路を提供することで、旅程づくりを支援

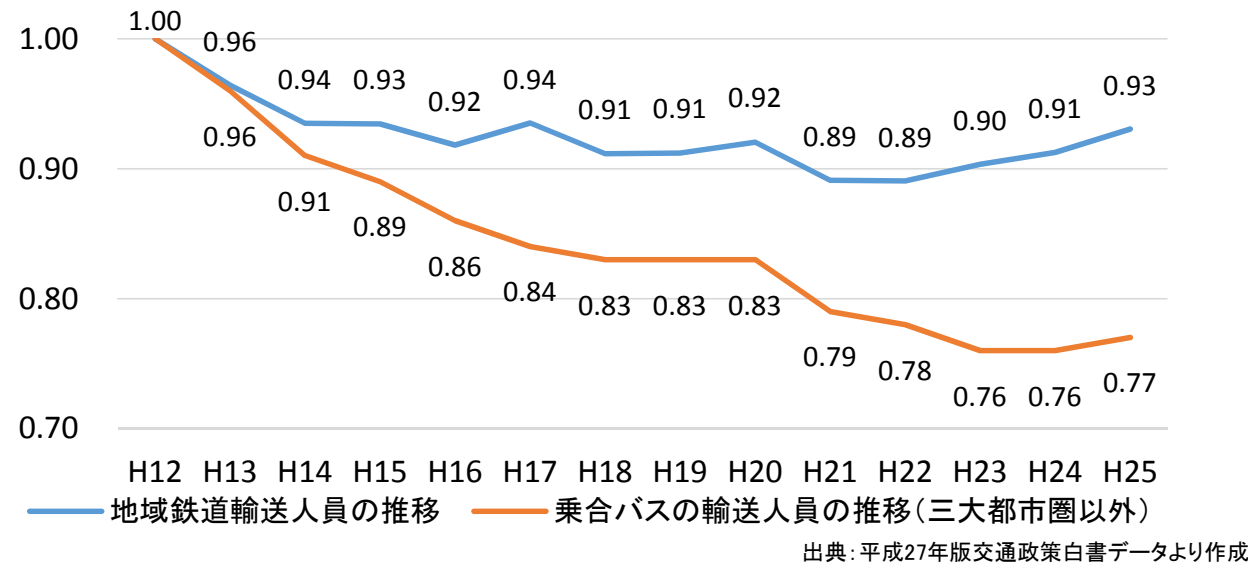
■富士山周辺における取組



地域の交通事情

○少子高齢化の進展等を背景に、地域の公共交通機関の輸送人員は減少傾向

■地域鉄道、乗合バス輸送人員の推移(H12年度を100とした場合)

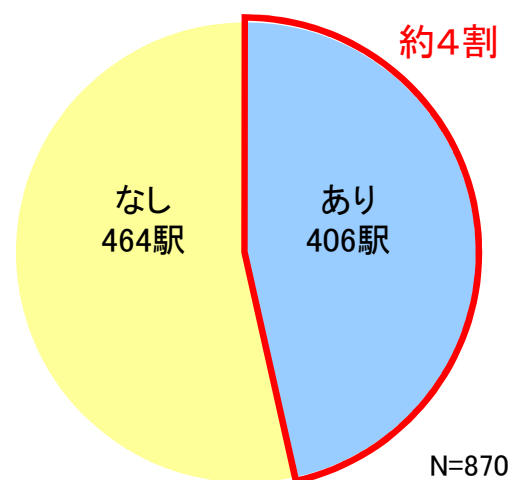


「道の駅」の交通拠点機能

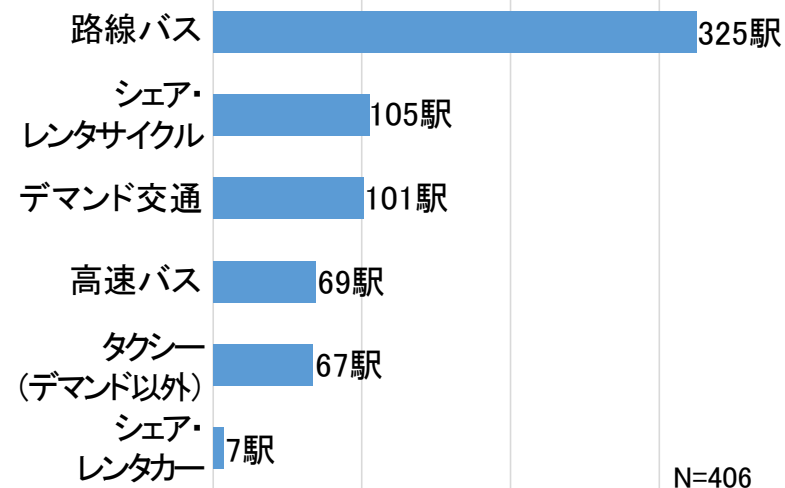
○中山間地域の「道の駅」の約4割が交通拠点機能を確保

■中山間地域「道の駅」の交通拠点機能の状況

【交通拠点機能の有無】



【交通拠点機能の種別】



※1つの「道の駅」が複数の結節機能を有する場合がありますため、駅数と合計が一致しない。

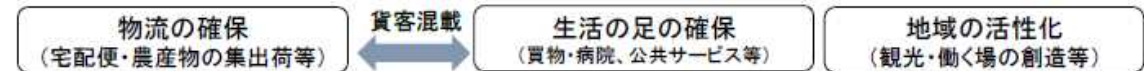
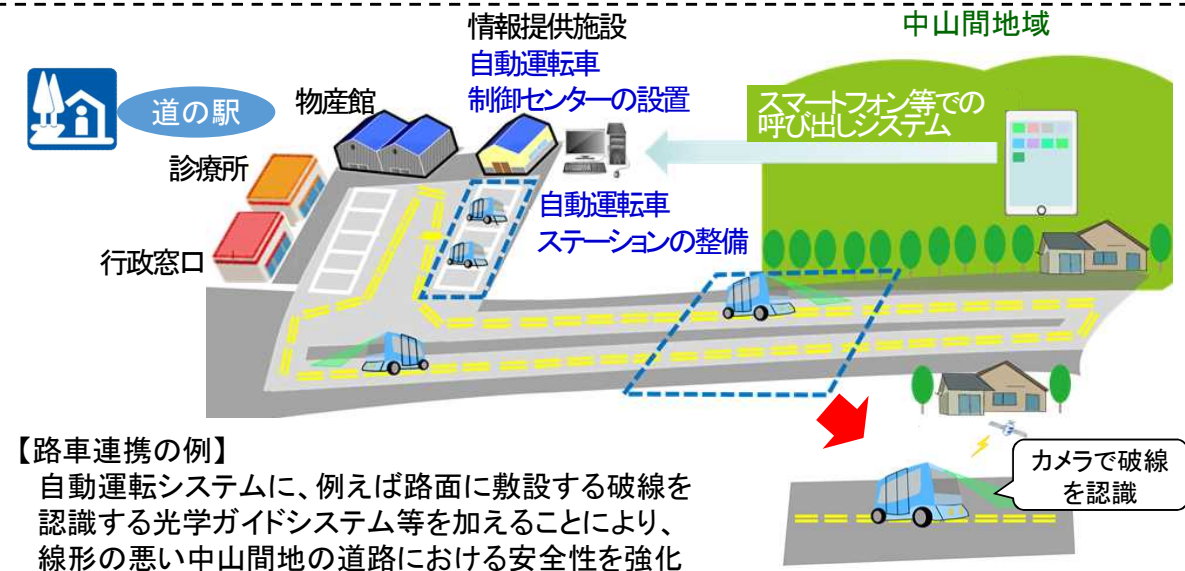
出典)国土交通省調べ

交通拠点機能の強化

○自動運転等の高度な技術を活用するなど、交通拠点機能を強化

■自動運転サービスのイメージ

・超高齢化等が進行する中山間地域において、人流・物流を確保するため、「道の駅」を拠点とした自動運転サービスを路車連携で社会実験・実装



■貨客混載の取組例(愛媛県内子町)

・高齢化により、自ら出荷が困難な高齢者支援対策として、デマンドバスを活用し、農産物集荷(貨客混載)を町内全域(17路線)で運用

道の駅「からり」

JR内子駅 内子町役場

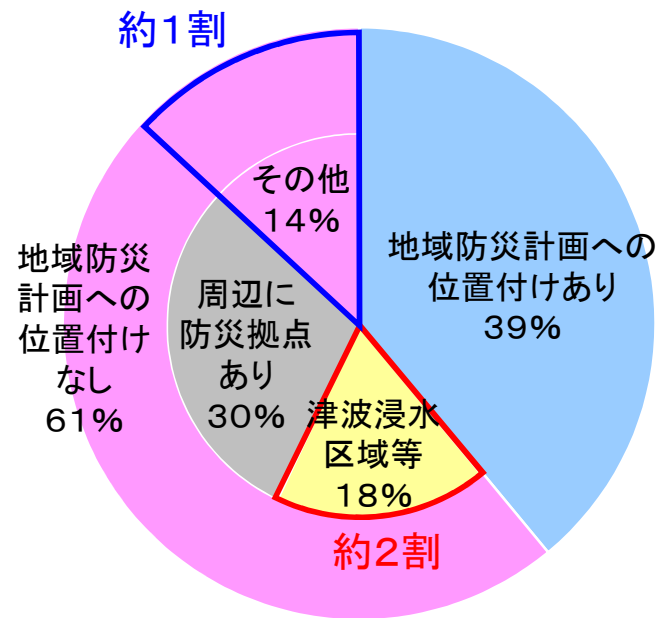
集荷した農産物を道の駅で販売

デマンドバスが旅客とともに農産物を集荷

防災機能の状況

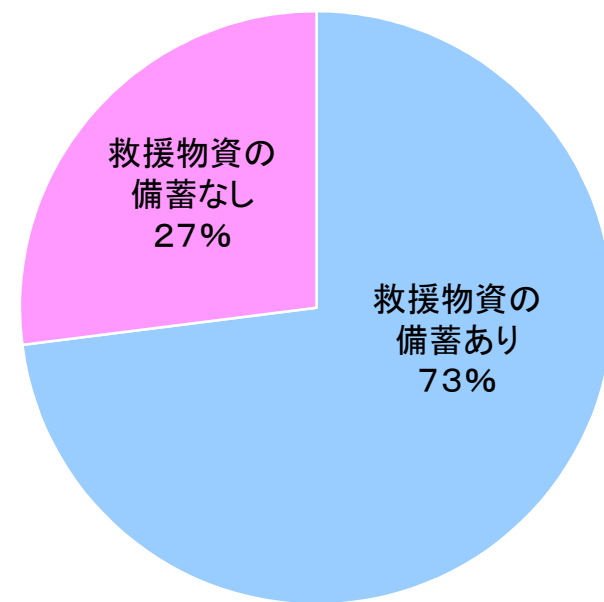
- 「道の駅」の約4割は地方自治体の地域防災計画に位置付けられ、災害時には支援基地等の機能を発現。
- 「道の駅」の約2割が津波浸水区域等に位置しており、防災拠点には適さない状況
- 防災拠点には適さない「道の駅」を除く約1割が防災拠点の位置付けなし。

■「道の駅」の地域防災計画への位置付け状況



N=1107
出典)国土交通省調べ

■高速道路SA・PAにおける救援物資の備蓄状況(有人施設)



N=559
出典)高速道路会社調べ(NEXCO3社)

地域防災計画と連携した災害時支援体制の強化

■熊本地震での主な対応の例

緊急避難者対応



車中泊の状況
(「道の駅」竜北)

支援基地の設置



自衛隊が支援基地を設置
(「道の駅」あそ望の郷くぎの)

「道の駅」の相互連携



九州・沖縄「道の駅」ネットワークによる支援物資

震災関係の情報発信



地域FMIによる情報発信
(「道の駅」小国)

■高速道路SA・PAでの主な対応の例

防災拠点としての活用



常磐道 守谷SAにおける訓練の様子

消防、救援活動拠点の整備

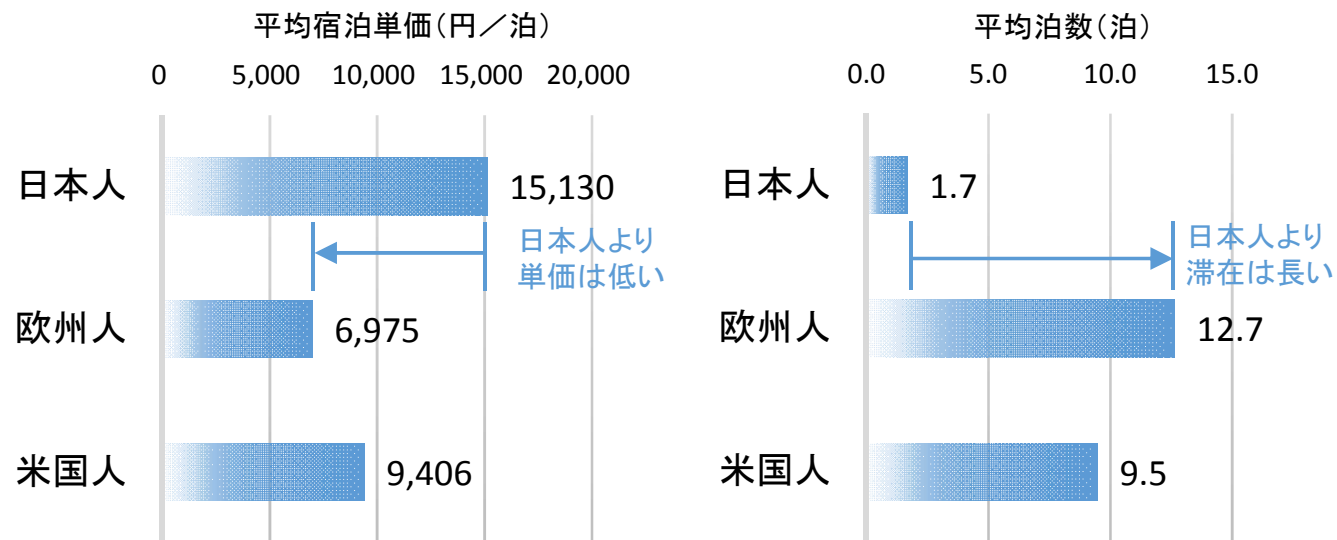


新東名 静岡SAにおけるヘリポートの整備

外国人観光客の宿泊嗜好

○外国人観光客は、日本人とは嗜好が異なり、行動も多様

■国別の観光客宿泊単価と平均泊数の状況

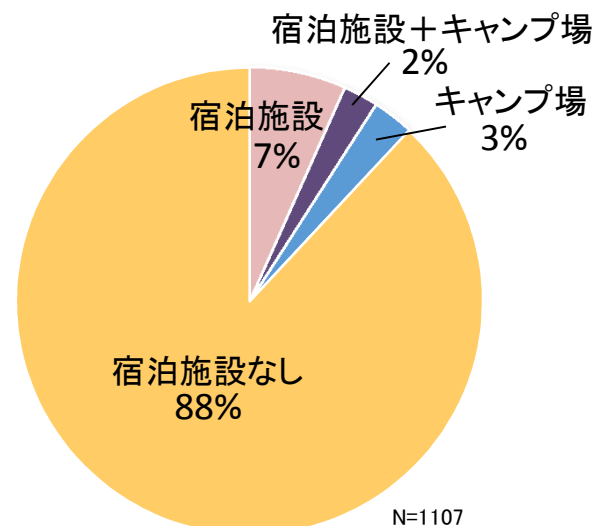


出典) 旅行・観光消費動向調査(2015年1~12月期)より作成
訪日外国人消費動向調査(平成27年)(欧州:英国,ドイツ,フランス,イタリア,スペイン)

「道の駅」、SA・PAの宿泊施設

○「道の駅」やSA・PAの一部では、宿泊機能を有している。

■「道の駅」の宿泊施設の設置状況



■SA・PAの宿泊施設の設置状況

全国で6箇所に設置

- ・東北道 佐野SA(上)
- ・東北道 佐野SA(下)
- ・東名高速 足柄SA(上)
- ・名神高速 多賀SA(下)
- ・山陽道 宮島SA(上)
- ・関門橋 壇之浦PA(下)

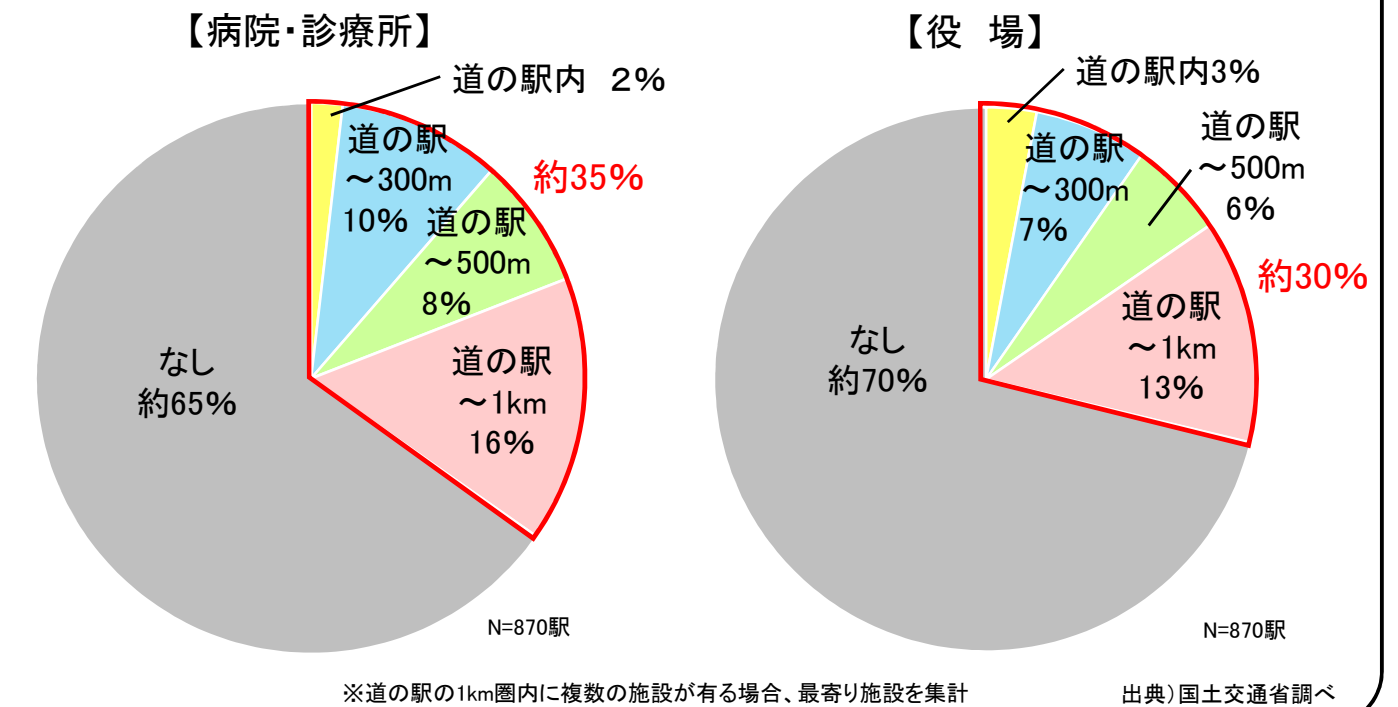


山陽道 宮島SA(上)

出典) 高速道路会社調べ(NEXCO3社)

「道の駅」の住民サービス拠点化

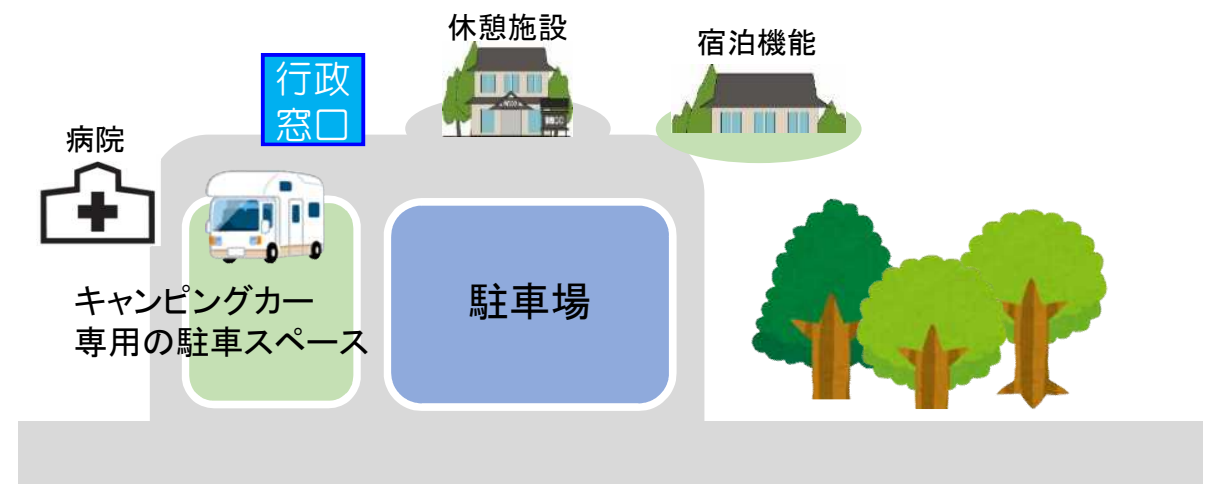
○「道の駅」内やその周辺には役場や病院が立地



ニーズに対応した多様な拠点への対応

○地域による、病院・行政窓口等の拠点化や、外国人観光客等の対応を、関係省庁等と連携し、支援

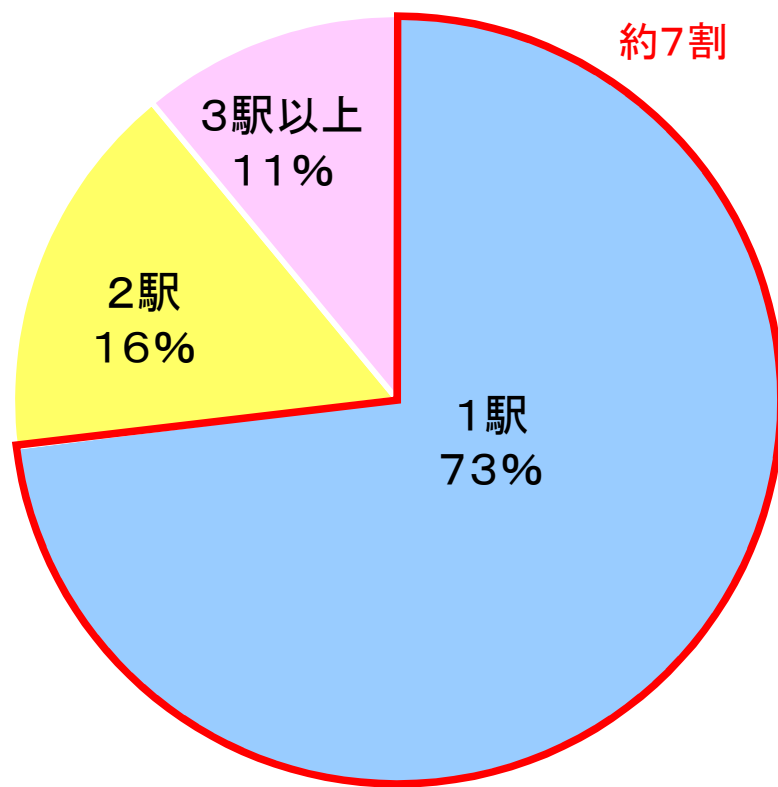
■休憩施設を併設した拠点化のイメージ



「道の駅」の設置状況

○「道の駅」を設置している市町村のうち約7割が1駅だけの設置であり、周辺の「道の駅」との連携により価値を高め合う取組が希薄

■同一市町村内の「道の駅」設置状況



N=743
出典)国土交通省調べ

「道の駅」間の多様な連携

○共通のテーマを掲げた「道の駅」間の多様な連携により相互に価値を高め合う取組の推進

ゲートウェイ及び「道の駅」連携のイメージ



(三陸海岸の取組事例)

三陸地域の「震災遺構」や「三陸ジオパーク」をテーマに各「道の駅」が連携し、役割分担しながら情報発信や案内・誘導を行い、地域の観光促進に寄与する。

◆「道の駅」連携の役割分担の事例

- 道の駅「高田松原」(重点道の駅)
三陸沿岸地域における津波被害の事実・教訓などを実物・実写で伝える震災伝承拠点。
- 道の駅「遠野風の丘」(全国モデル道の駅)
震災伝承や沿岸地域被災時の後方支援拠点として活動した実情・教訓を情報発信。
- 道の駅「たらう」(重点道の駅)
三陸ジオパークや周辺の震災遺構に関する詳細情報(周遊ルートマップ、所要時間等)を発信。



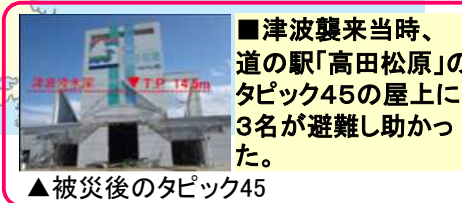
道の駅「高田松原」及び国営追悼・記念施設(仮称)イメージ



道の駅「遠野風の丘」自衛隊の後方支援基地として活躍



道の駅「たらう」直近の震災遺構(田老観光ホテル)



■津波襲来当時、道の駅「高田松原」のタピック45の屋上に3名が避難し助かった。
▲被災後のタピック45

◆震災遺構統一サインイメージ(検討中)



日本風景街道のルート登録状況

- 日本風景街道の登録ルートは全国で138(平成29年1月現在)
- 「道の駅」と連携した取り組みを行っている「日本風景街道」ルートは、全体の約3割。



日本風景街道等との連携

- 先行事例の収集、横展開により、道の駅(点)と日本風景街道(線)等の効果的な連携を支援

■具体的な連携事例

風景街道の活動としてサイクリスト向けの施設を「道の駅」に設置



自転車休憩所のある「道の駅」



自転車休憩所のロゴマーク



「道の駅」を活用した収益により、草刈り等道路景観管理活動(燃料代、刈草やゴミ処分料等)を実施



道の駅での出店



道路景観管理に還元

今後の進め方(素案)

		短期的な取組(～H29年度)	中長期的な取組(H30年度～)
基礎機能の充実	トイレ等の品質向上	チェックポイントの作成	トイレの改善
	駐車場容量の運用改善	駐車マスの利用実態の把握	駐車マスの見直し、予約社会実験等 予約の運用
	的確な情報提供	地域・利用者ニーズの把握 周辺観光地へのアクセス性分析 (閑散期、繁忙期の経路別到達時間等)	関係者調整 周遊プランの策定
地域拠点形成への支援	交通拠点機能の強化	自動運転技術実証実験 ビジネスモデル検討 (貨客混載、観光周遊等)	新たな自動運転技術実証実験 → 拡大 → 民間ベースでの自動運転ビジネスの展開 自動運転ビジネス社会実験 → 社会実装 → 民間ベースでの自動運転ビジネスの展開 地域特性を活かした多様なビジネスモデルの検討 → 民間ベースでの自動運転ビジネスの展開
	災害時支援体制の強化	好事例の収集と課題等の把握	効果的な防災機能の整備検討
地域への工夫への支援	「道の駅」間の連携強化	好事例の収集と課題等の把握	効果的な連携支援
	日本風景街道等との連携の充実	好事例の収集と課題等の把握	効果的な連携支援